

《 2018年3月 マーケット概況 》

資産クラス	指数	1月	2月	3月	当月リターン	昨年来リターン
国内株式	日経平均株価	23,098.29	22,068.24	21,454.30	-2.8%	12.2%
	マザーズ指数	1,313.38	1,239.13	1,206.24	-2.7%	28.0%
外国株式	S&P500	2,823.81	2,713.83	2,640.87	-2.7%	18.0%
	MSCIEurope	1,892.98	1,777.75	1,750.54	-1.5%	19.0%
新興国株式	上海総合指数	3,480.83	3,259.41	3,168.90	-2.8%	2.1%
	ムンバイ SENSEX	35,965.02	34,184.04	32,968.68	-3.6%	23.8%
海外金利	米政策金利	1.50	1.50	1.75	-	-
	米国債 10年	2.71	2.86	2.74	-	-
国内金利	政策金利	0.10	0.10	0.10	-	-
	10年物国債	0.08	0.05	0.05	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	109.17	106.67	106.26	-0.4%	-9.1%
	ユーロ	135.61	130.05	130.92	0.7%	6.5%
コモディティー	ICE 原油(先物)	64.73	61.64	64.94	5.4%	20.9%
	COMEX 金(先物)	1,343.10	1,317.90	1,327.30	0.7%	15.2%
不動産	東証 REIT 指数	1,744.89	1,700.96	1,688.66	-0.7%	-9.0%
ヘッジ・ファンド	HFRX 指数	1,306.79	1,275.14	1,262.63	-1.0%	5.8%

見 通 し

◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

[3月の金融市場]

3月の日本株は、下落の勢いこそ止まったものの上値も重く調整色の強い展開が続きました。日経平均株価の月間パフォーマンスは-2.8%の小幅下落でしたが、日々の値動きは荒く不安定な相場に終始しました。背景には、トランプ大統領の通商政策発動による貿易戦争懸念や、フェイスブックの個人情報不正利用問題などで米国株式が乱高下した影響がありました。また、森友問題で安倍内閣の支持率が急落し、国内政治リスクが売り要因になりました。米国株式はNYダウで月間で3.7%安となり、2月に続き軟調な動きとなりました。

為替市場では、地政学リスクの後退や米国株式市場の落ち着きで2月までの円急上昇に歯止めがかかりましたが、戻りは鈍くドル円相場は106円を挟んで狭いレンジでの膠着相場が続きました。

米国10年債金利は、インフレ懸念の緩和や株価下落により上昇圧力が弱まり、月末には2.7%台前半まで低下しました

[今後の見通し]

2日に発表された3月の日銀短観によると、大企業・製造業の業況判断DIが24ポイントで前回より2ポイント低下し8四半期ぶりの悪化となりました。また、今期の経常利益見通しも大企業・全産業で2.2%減益と慎重な見方に転じています。年初からの円高や米国株式をはじめ世界的なリスクオフの動きが影響しているようです。一方、設備投資計画は大企業で2.3%増と予想(1.0%増)を上回っていることはプラス要因です。景気・企業業績に対する減速懸念は否めませんが、株式市場では日経平均の21000円近辺ですでに今期1割程度の減益は織り込んだと見ております。短期的には米中の通商交渉の行方やトランプ発言に神経質な動きかもしれませんが、下値は限定的で夏場に向けては徐々に明るさを取り戻す展開を予想しています。今月の日経平均は21500円~23000円での下値切り上げを想定、3月決算発表後の来月以降は個別物色でさらに戻り相場の様相を強めると考えております。

見 通 し

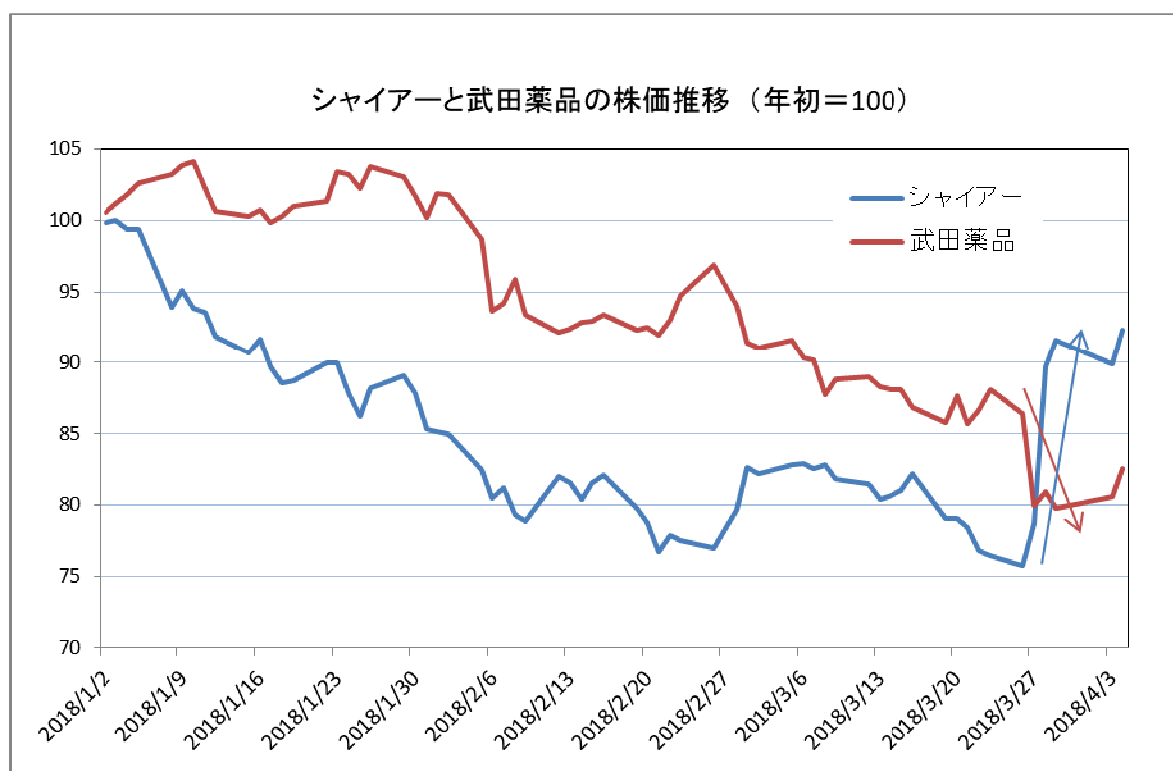
◆◇ オルタナティブ(ヘッジファンド) ◇◆

[3月のヘッジファンド動向]

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社(HFR社)が算出する3月のヘッジファンドインデックスは、マイナス0.98%と続落しました。米国株式市場における投資家の不安心理を表すとされるVIX指数が20ポイントを上回る

日が多く、主要国の株式市場は2月に続いて不安定な状態でした。ヘッジファンドの戦略ではすべてがマイナスとなり、苦戦が強いられている様子が見て取れます。なかでもイベント・ドリブンはマイナス2.16%と、他の戦略に比べて大きく落ち込む結果となりました。イベント・ドリブン戦略は、近年盛んな合併・買収（M&A）や再編に賭けて成績を上げてきました。この戦略のリスクは、予定されていたM&Aが破談したり、再編がうまく行かなかったりするところにあります。身近なところでは、昨年春に日本郵政が野村不動産を買収するというニュースが流れて野村不動産の株が急伸しましたが、結局その話は破談し、株価は急落したという事例があります。また、今年の3月に武田薬品工業がバイオ医薬品のシャイアーに対する買収を検討すると報じられると、その直後からシャイアーの株が上昇し武田薬品の株が下落する動きが続いています（株価推移参照）。しかし、このM&Aが実現しないとシャイアーを買って武田薬品を売る戦略は失敗に繋がっていきます。低金利かつ安定した経済の下では容易に成功したM&Aも、先行き不透明な環境ではその実現可能性が低くなりリスクが増すこととなります。足元で苦戦しているイベント・ドリブンの成績をみるとこれらのリスクが具現化しているものと推察されます。

カイト・レーク・キャピタル、エバレット・キャピタル・アドバイザー、メルカート・アセットはいずれもヨーロッパを中心に投資資金を集めるイベント・ドリブン戦略のヘッジファンドです。3社合わせた運用資産の15億ドルは、極めて短期間で集まったとされています。投資家の期待にこれらのファンドが応えられるかどうか、今後の運用成績が注目されます。



【ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）】

	過去	2018年			2017年		
	12ヶ月	3月	2月	1月	12月	11月	10月
ヘッジファンド・インデックス	3.20%	-0.98%	-2.42%	2.45%	0.73%	0.07%	0.69%
株式ロング・ショート	8.35%	-0.69%	-1.49%	3.41%	1.03%	0.87%	0.79%
イベント・ドリブン	-1.55%	-2.16%	-4.38%	1.76%	0.39%	-0.35%	-0.13%
レラティブ・バリュー	3.76%	-0.33%	0.23%	1.09%	0.67%	-0.25%	0.52%
マクロ	1.20%	-0.79%	-4.86%	3.80%	0.82%	-0.15%	1.92%
CTA	3.05%	-0.23%	-7.36%	4.73%	1.99%	1.31%	3.67%

そうだったのか！「知って納得、証券投資」 vol. 105

東証マザーズETF

2018年2月1日に、東証マザーズETF（証券コード：2516）が上場しました。このETFは、東証マザーズ指数への連動を目指す日本初のETFです。これまで、東証マザーズCore指数（東証マザーズ市場を代表する15銘柄で構成）への連動を目指すマザーズ・コアETF（証券コード：1563）はありましたが、東証マザーズ指数全体への連動を目指すETFはありませんでした。

そもそも、東証マザーズ市場は、ベンチャー企業向けの株式市場で、東証1部へのステップアップを目指す新興企業が多数上場しており、このETFを保有すると、マザーズ市場の全銘柄に投資するのと同じ効果を得ることができます。また、個別銘柄との損益通算、NISAを使った購入、信用取引など、個別銘柄と同じように投資ができます。この機会に、日本の新興企業へ投資してみたいはいかがでしょうか。

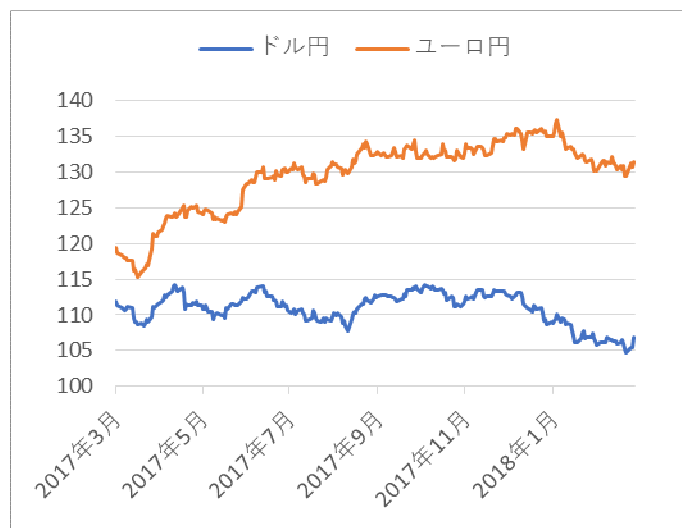
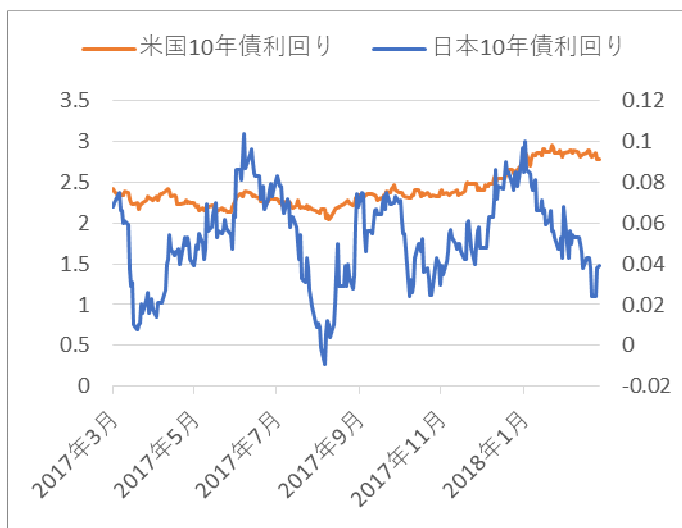
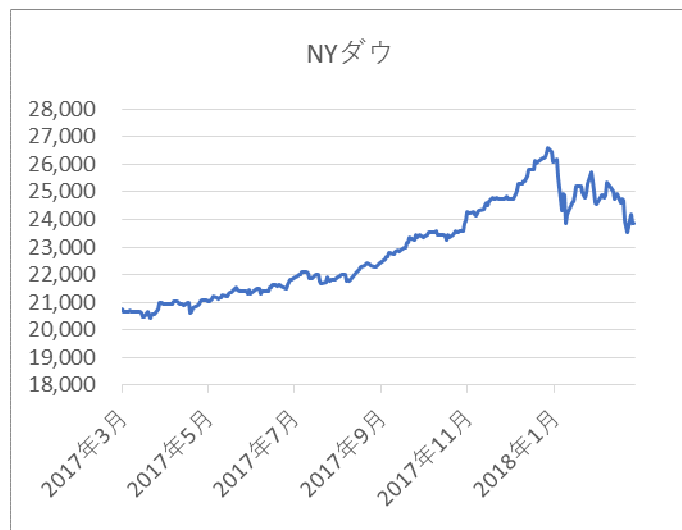
[東証マザーズ ETF の特徴]

銘柄名	東証マザーズ ETF (証券コード: 2516)
特徴	東証マザーズに上場する内国株全銘柄を対象とした株価指数である「東証マザーズ指数」への連動を目指す ETF
分配金支払基準日	毎年 7 月 8 日 (年 1 回)
売買単位	10 口単位
管理会社	シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社
信託報酬	0.50% (税込 0.54%) 以内

[東証マザーズ指数の時価総額上位 10 銘柄 (2018 年 3 月末時点)]

コード	銘柄名	概要	業種	時価総額 (百万)
2121	ミクシィ	SNS「ミクシィ」の運営のほか、スマホゲーム「モンスターストライク」を展開	サービス業	307,447
7779	CYBERDYNE	ロボットスーツ「HAL」開発の筑波大初のベンチャー企業	精密機器	206,845
3993	PKSHA Technology	深層学習など AI のアルゴリズム機能を開発・提供	情報・通信	174,443
4565	そーせいグループ	創薬ベンチャーで、元ジェネンテック社長の田村真一氏が創設	医薬品	168,065
4592	サンバイオ	中枢神経系疾患領域の再生細胞薬を開発するバイオベンチャー	医薬品	161,739
3479	ティーケーピー	貸会議室の運営大手で、遊休不動産の一括借り上げ、小分け活用に特徴	不動産業	136,744
7172	ジャパンインベストメントアドバイザー	航空機リースが柱	証券業	118,045
3679	じげん	求人や不動産など各情報サイトを一括検索する集約サイト展開	情報・通信	108,753
2497	ユナイテッド	ネット広告とスマホ用ゲーム開発が主力	サービス業	101,903
4593	ヘリオス	iPS 細胞、間葉系幹細胞による治療薬開発のバイオベンチャー	医薬品	97,920

◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 . . . 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド) . . . 樋爪 功次

そうだったのか!「知って納得、証券投資」Vol. 105 . . . 八木 宜行
東証マザーズETF

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

本資料の表・グラフのデータ出所：THOMSON REUTERS

K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 / 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 / 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

